

4年間の学びのステップ LEARNING STEPS OF 4 YEARS

▶ **カリキュラム** ◎:必修 ●:選択必修 ★:講義は英語で行われます ▲:履修には条件があります

1年次	2年次	3年次	4年次
基礎	応用	発展	
<p>心理学について知る。</p> <p>さまざまな心理学の領域や研究の進め方についての基礎的知識、データの考え方や基礎的な分析方法について学ぶことで、心理学という学問において修得すべき内容の全体像を理解します。</p> <p>演習・卒業論文に関する科目 ◎基礎演習</p> <p>研究法に関する科目 ◎心理学研究法 ◎心理学統計法I 心理学研究法各論I 心理学統計法II</p> <p>基礎専門に関する科目 ◎心理学概論I・II ◎社会・集団・家族心理学I ◎発達心理学I ◎文化心理学</p> <p>隣接領域 人体の構造と機能及び疾病</p> 	<p>心理学をもとに考える。</p> <p>心理学の理論、研究法、データ収集・分析の基礎的知識に加え、応用的分野の心理学の知識を学ぶことで、人と関わる事柄を心理学の知識を応用して考えることができる能力を身に付けます。</p> <p>研究法に関する科目 心理学研究法各論II・III 心理学文献講読 心理学英語文献講読 研究情報収集法</p> <p>実験・演習に関する科目 ◎心理学実験I ▲心理学実験II</p> <p>基礎専門に関する科目 ◎知覚・認知心理学I ◎教育心理学 ◎臨床心理学概論</p> <p>認知領域 知覚・認知心理学II</p> <p>教育発達領域 ★発達心理学II</p> <p>社会産業領域 社会・集団・家族心理学II 消費者行動心理学 マーケティング</p> <p>臨床領域 心理学的支援法 臨床カウンセリング心理学 心理的アセスメント</p> <p>文化・環境領域 スポーツ心理学</p> <p>隣接領域 関係行政論 公認心理士の職責</p>	<p>心理学を使って動く。</p> <p>心理学の応用的知識とともに、演習・実習での実践的な課題の取り組みにより獲得した研究遂行スキルを基にして、社会の問題、身近な疑問を解決するために、自律的・主体的な研究計画の策定、データ収集・分析・考察、結論の導出ができる能力を身に付けます。</p> <p>演習・卒業論文に関する科目 ◎演習I(A) ◎演習I(B) ●プレゼンテーション法 ◎演習II(A) ◎演習II(B) ●卒業研究A・B</p> <p>研究法に関する科目 消費者行動研究法 心理学統計法III</p> <p>実験・演習に関する科目 ▲心理演習(検査) ▲心理演習(面接) ▲心理学調査実習 ▲消費者行動分析実習 ▲心理実習</p> <p>認知領域 神経・生理心理学 ★実験心理学 感情・人格心理学 学習・言語心理学</p> <p>教育発達領域 社会・集団・家族心理学III 老年心理学 教育・学校心理学 キャリア発達心理学</p> <p>社会産業領域 コミュニケーション心理学 ★対人関係心理学 産業・組織心理学I</p> <p>臨床領域 障害者・障害児心理学 健康・医療心理学 産業・組織心理学II 福祉心理学 司法・犯罪心理学 精神疾患とその治療</p> <p>文化・環境領域 ★日本人の心理 ★環境心理学</p>	

※上記カリキュラムは2023年度入学者より適用予定。

教員紹介

安藤 花恵 教授	認知心理学
井上 久美子 教授	発達心理学
浦田 英範 教授	臨床心理学
進藤 啓子 教授	臨床心理学
中村 奈良江 教授	認知心理学
花田 利郎 教授	臨床心理学、カウンセリング
柳澤 さおり 教授	社会心理学、産業・組織心理学
小川 邦治 准教授	臨床心理学、産業カウンセリング
田原 直美 准教授	社会心理学、産業・組織心理学
横木 智彦 准教授	スポーツ心理学
分部 利紘 准教授	消費行動心理学、認知心理学
松尾 剛 准教授	教育心理学、学習・言語心理学

主なゼミテーマ

感性・情動・身体・芸術などに関わる認知
人間の生涯発達における成長過程や心のありようの変容過程
精神分析的な心理療法や心理テスト
自己概念、ストレス、健康、キャリアデザイン
ストレスマネジメントに関する領域、トラウマ関連に関する領域、子どもの臨床の分野
人と人が関わりあう行動
スポーツ、体育場面、健康の維持増進に関わる心理的な問題
スループ効果、誤記憶
思春期・青年期の心性、性格、感情や態度の表し方、居場所
動機づけ、学習方略、教育評価、協同学習
働くことに関わる心理的問題
消費者行動を中心とする意思決定と選好

▶ 学科 PICK UP (ゼミの学び)

安藤 花恵教授

ゼミテーマ 感性・情動・身体・芸術などにかかわる認知心理学

実験や調査で得られたデータをもとに、人の頭(心)の中がどうなっているのかを実証的に明らかにしていくのが心理学の醍醐味。ゼミはその実践の場です。グループで、そして最終的には個人で、「人の顔と名前を覚えるのによい方法は?」「どうすればロボットを不気味に感じなくなる?」など人に関する疑問を設定し、それを解明するための実験や調査をおこなってデータを分析することで、人の心のしくみの一端を明らかにしていきます。



「ZOOM IN カリキュラム」

教育心理学

教育心理学は心理学の知見をもとにして教育実践の理解と改善を目指す学問領域です。子どもの発達、学習に対する意欲、記憶や思考のしくみ、教育評価の方法と役割、など幅広い領域に関する知識を学びます。さまざまな場面で活用できる知識の獲得を目指して、具体的な経験と結びつけながら理解を深めてもらうことを大切にしています。

心理演習(面接)

公認心理師および臨床心理士に必要なとされる心理面接に関する基本的な知識と技能についてロールプレイングを交えながら体験的に学んでいきます。具体的には、実際の心理面接を想定して、受講生同士でカウンセラーとクライアントの役割をそれぞれ演じることで、より良い心理的支援のあり方について考えていきます。

STUDENT'S VOICE

知識と実践を結びつけて 子どもの心に寄り添い続ける。

子どもの心の発達に興味があり、本学科を志望しました。学科の学びを実践する場として、現在力を入れているのが児童保育でのアルバイト。子どもたちが発する言葉の裏にある気持ちまで汲み取れるように、心理学の知識をヒントに接し方を工夫しています。子どもだけでなく、人と話をする時に、自分のことのように話を聞き、共感を大切にできるようになったことに自身の成長を感じます。将来の目標は、子どもたちが楽しく安心して暮らせる「居場所」を作ること。そのために、今後も実践を積み重ねていきたいです。

人間科学部心理学科 3年

草野 朝

(福岡県・筑前高等学校出身)

私が思う
心理学の面白さ
身近な生活自体が
学びの対象となる
面白さを実感

